

口永良部島の火山活動解説資料（平成 22 年 5 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

噴煙活動はやや高まった状態で経過しました。

その他の火山活動に特段の変化はなく、新岳火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口内では引き続き噴煙がみられており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

平成 21 年 10 月 30 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 5 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 2、図 4）

噴煙の高さは火口縁上概ね 200m（最高高度は 400m）で経過するなど、噴煙活動はやや高まった状態で経過しました。

13 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、前回（1 月 26 日）と比べて新岳^{しんだけ}火口からの噴煙量が増加していました。

・地震や微動の発生状況（図 2）

火山性地震は少ない状態で経過しました。月回数は 20 回（4 月：41 回）でした。今期間、震源が求まる火山性地震は観測されませんでした。

火山性微動の月回数は 30 回（4 月：13 回）で、前期間と比べてやや増加しました。

・地殻変動の状況（図 2、図 3）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

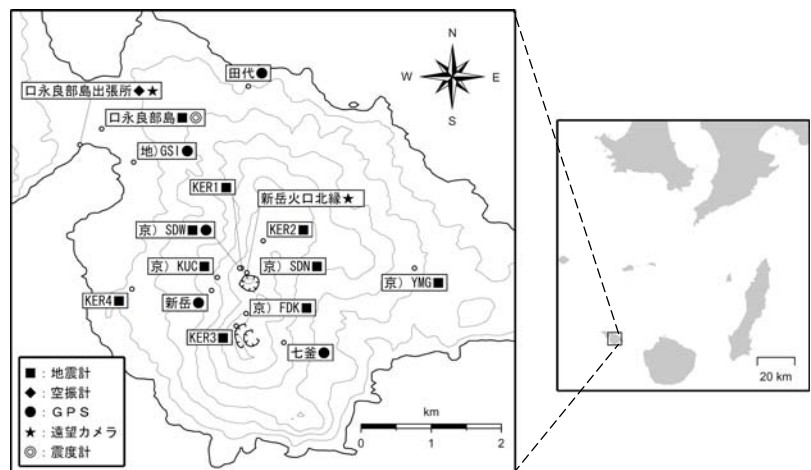


図 1 口永良部島 観測点配置図

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 6 月分）は平成 22 年 7 月 8 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、海上保安庁、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

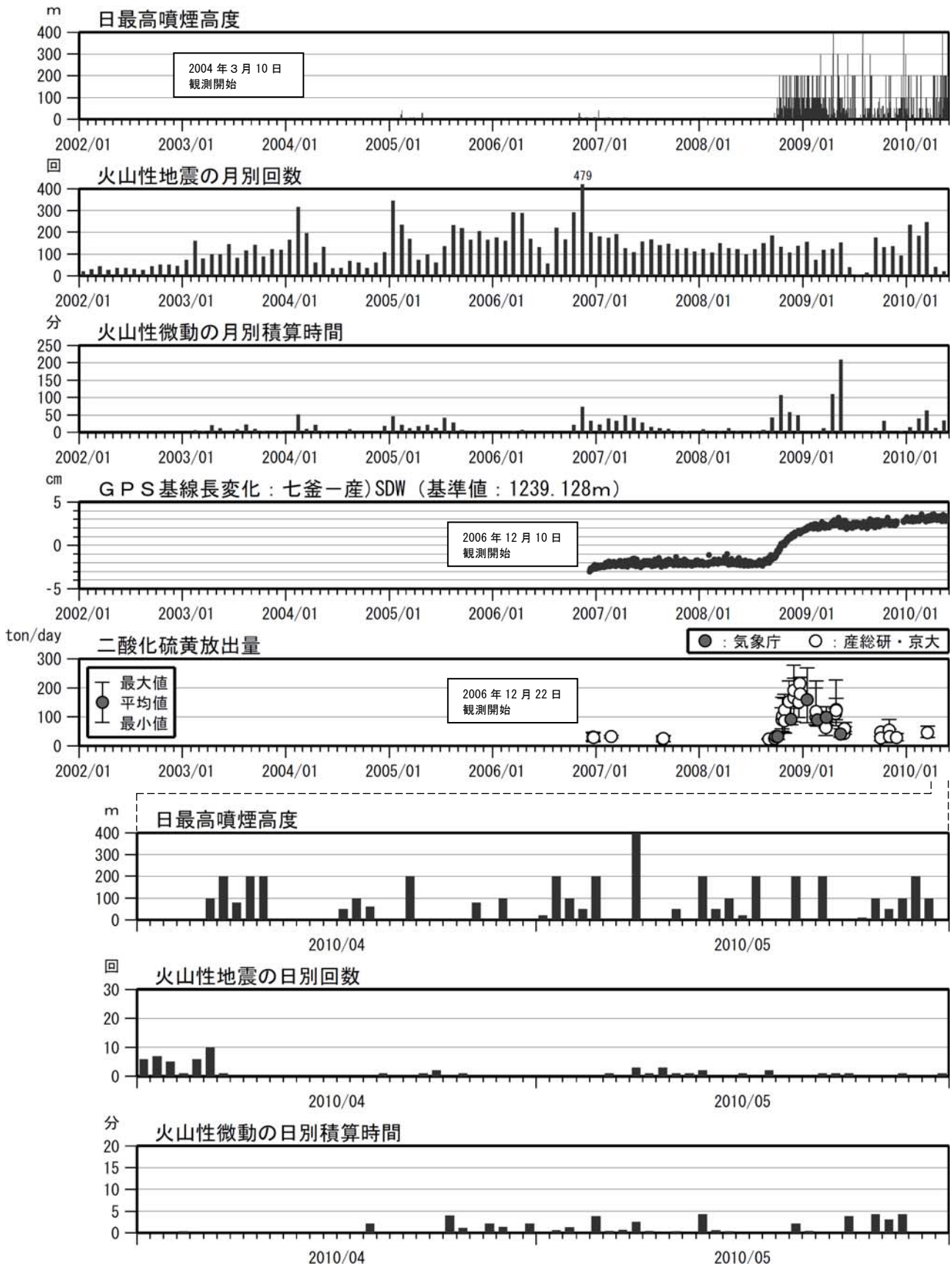


図 2※ 口永良部島 火山活動経過図（2002 年 1 月～2010 年 5 月）

< 5 月の状況 >

- ・噴煙の高さは火口縁上概ね 200m（最高高度は 400m）で経過するなど、噴煙活動はやや高まった状態で経過しました。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しました。月回数は 20 回（4 月：41 回）でした。
- ・火山性微動の月回数は 30 回（4 月：13 回）で、前期間に比べて増加しました。

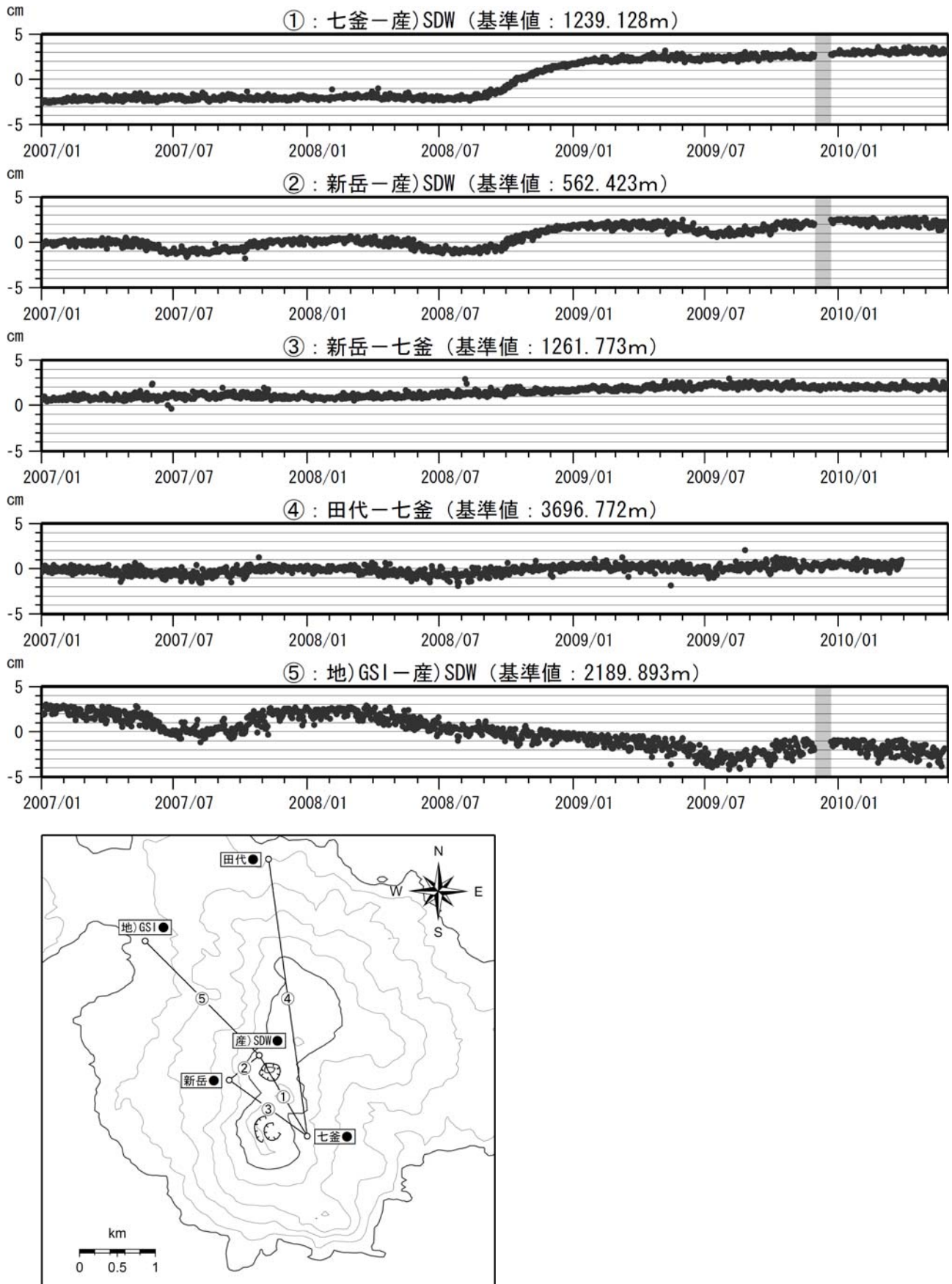


図 3※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化 (2007 年 1 月~2010 年 5 月)
 <5 月の状況>

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

灰色部分は観測点障害のため欠測。

田代観測点は機器障害のため現地収録としています。今期間のデータは後日掲載します。

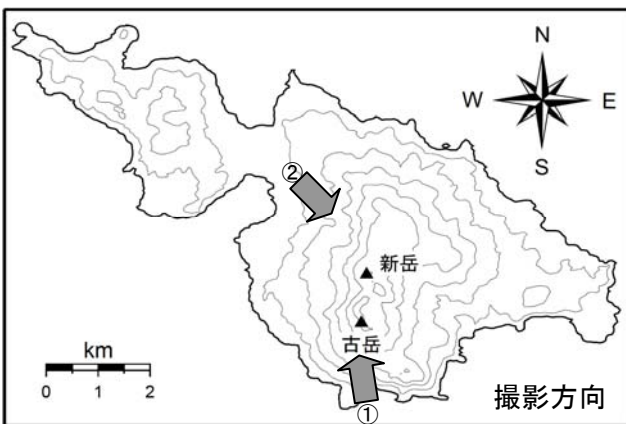
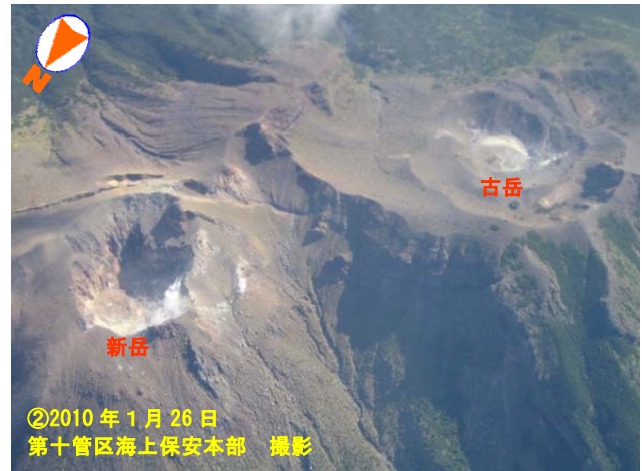


図 4※ 口永良部島 新岳火口周辺の状況

13日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、前回（1月26日）と比べて新岳火口からの噴煙が増加していました。